（昭和29年10月15日第三種郵便物認可）

才70号
発行所 小田原市役所
小田原市幸1の138
編集兼発行人 浦 寅松
印刷所 又進堂印刷所
定価一部三円

「祝儀、不祝儀 返禮なしの運動」を決議
新生活運動研究大会

一月二十日午前十時から午後四時まで、尊徳記念館において小田原市新生活運動協議会と小田原市教育委員会共催による小田原市新生活運動研究大会が開催されました。

当日は婦人会、青年団、公民館長、民生委員、嘱託員、各小学校長等関係者三二〇名の出席を得て終日熱心に研究が行われました。

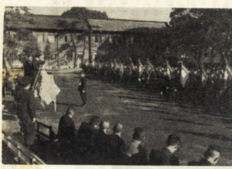
午前十時、押田新生活運動協議会長、小野教育委員長のあいさつ、関野教育長の祝辞、田島新生活運動協議会副会長の本市新生活運動実情報告につづいて、二八婦人会安藤会長の「環境衛生の実施状況」、下曾我青年団員の青年学級生活科学グループの「祭典経費並びに睡眠時間の研究発表」、上府中婦人会員時田満子さんの「家族計画の実情発表」があり、出席者に対し多大の感銘をあたえました。

午後は市青年団連盟理事長PTA会長、婦人会長、公民館代表等六名により「新生活運動の推進はいかにしたらよいか」について陪席式討議が行われ、一般出席者も交えて、新生活運動についての今後のあり方について熱心に討議が行われました。新生活運動は台所の改善や無駄の節約ばかりでなく、精神的の面において古い因習、迷信を打破して豊かな生活を打立てることが大切であり、それにはあくまで家庭に、地域に、職場に新生活運動の意義が理解され納得の上で実行されることが大切であると強調されました。

本大会において、本年の目標については「祝儀不祝儀返礼なしの運動」が出席者全員に了承され、この目標の実施に全員協力する旨の決議がなされました。

なお本年は昨年三十五名の出席に比し三二〇名の出席を得たこと、青年団員が熱心にこの問題に取組んで実施に進むことを申し合わせたことなどが本研究大会の特色で今後の運動の進展が大いに期待されます。

消防始式 はなやかに挙行さる



新春を飾る恒例の消防始式は、一月十一日午前八時から御濠端で消防署及び市内各地区消防分団の消防車五台、手引動力ポンプ十三台、可搬動力ポンプ三十九台、消防署員四十七名、消防団員一千二百五十六名が参加してはなやかに挙行されました。

式は、鈴木市長を観閲者として、参加部隊の人員、装備の検閲にはじまり勇壮な分列行進が行われた後、才十八、十九分団員により古式ゆかしいまとい振り込み梯子乗りの妙技が展開されました。

一方お濠端一ぱいに配列したポンプからは力強いエンジンの音とともに七十五本のホースが延びて一齊に放水が開始されるやその水幕は隅櫓を包んで朝日にきらめき虹のかけ橋が中空高く鮮やかにえがき出され、市消防部隊の威容を遺憾なく示しました。

引続いて城内小学校校庭で表彰式が挙行され、先ず鈴木市長から昨年十二月二十九日烈風下に発生した小田原駅前の火災に際し、果敢な消防活動を行い災害を最少限にくい止めた消防署及び消防団の功績に対し、表彰状並びに感謝状が贈られ次いで市長から優良消防職員に、消防協会支部長から優良永年勤続団員に、消防長から火災を早期に発見、通報又は初期に消火する等消防に協力された市民の方々にそれぞれ表彰状が授与され、午前十一時盛会裡に終了いたしました。

被表彰者は次の通り。

市長表彰（優良消防職員）
市消防署足柄出張所 消防士長 石川長太郎

消防協会支部長表彰（優良消防団員）
才五分団 本多俊夫 外二十一名

（永年勤続消防団員）
三十年勤続 才二十五分団 広石利郎 外二名
二十五年勤続 才二十一分団 瀬戸関蔵 外二名
二十年勤続 才十二分団 小砂理助 外七名
十五年勤続 才四分団 大平新太郎 外三十二名
十年勤続 才二分団 森本忠男 外百七十三名
総計 二百四十三名

消防長表彰
火災早期発見者（十七名）
山本修悦（万年）桜井キク（緑）小林三郎（中島）出口静江（緑）菊地信子（万年）高橋勝己（鴨宮）天野清（下新田）青木利夫（平塚）中島リエ（板橋）播摩二三子（板橋）辺見正田（万年）秋沢由雄（酒匂）金谷一兄（緑）大塚八重子（新玉）八木セイ（幸）椎野彦太郎（小八幡）山本善久（新玉）

早期通報者（九名）
山下弘子（緑）柿田吉英（小山町）池田豊（中島）内田康司（幸）市川将貴（板橋）渡辺佐登子（万年）右田勝彦（十字）杉山常蔵（緑）北原功（新玉）

消火協力者（十五名）
岡本テルエ（幸）梅原経男（緑）長坂正義（板橋）原信男（緑）加藤金之助（幸）西郷正雄（緑）杉崎春松（幸）鈴木幸雄（中島）国原義雄（多古）和田久治（小八幡）守屋清（荻窪）石川登（万年）本舘知余吉（井細田）杉山嵓（板橋）飯田幸雄（山王原）

【写真は消防始式における表彰】

建設だより

◇大下水排水路改良工事（新玉一丁目地内）
工事概要 緑、新玉、万年地内の水害を防ぐため、現在の大下水からコンクリート暗渠の支流を海岸まで延長三三〇米にわたって設置するもので、今回はその才一期工事として大下水から才一国道を横断した地点まで、延長七八米、幅員二米、深さ二米のコンクリート暗渠を新設するもの。
工事費三〇〇万円（うち国庫補助一〇〇万円）
一月十二日着工、三月三十一日完工の予定。

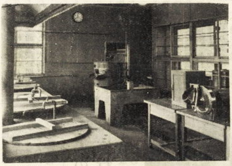
◇幸万年線用水改良工事（万年二丁目～三丁目地内）
工事概要 幸万年線の地下中央を流れている従来の石積用水が破損しているので、同路線のうち山本旅館前から海浜病院前まで延長二五〇米にわたって内径六〇糎のヒューム管を埋設するもの。
工事費は三十六万八千円で、一月四日着工、二月十日完工の予定です。
なおこの工事は、本年度において国庫補助を得て同区間をコンクリート舗装するに先立って着工されるものです。

◇出口橋架設工事（久野留場地内）
工事概要 鉄筋コンクリート橋一基延長一四、四米、幅員四米、総工事費一二〇万円（うち県費補助六〇万円）
一月十四日着工、三月二十日完工の予定。

◇又渡橋架設工事（久野卅原地内）
工事概要 鉄筋コンクリート橋一基延長一三、四米、幅員四米、総工事費一二〇万円（うち県費補助六〇万円）
一月十四日着工、三月三十一日完工の予定。

◇市営曾比団地木造住宅新築工事
（曾比二、二九九番地、旧桜井小学校あと）
工事概要 才二種S型住宅、建坪八坪五合、十一棟、延九三坪五合、木造平家建厚型スレート葺
才二種W型住宅、建坪八坪五合、十棟、延八五坪木造平屋建厚型スレート葺
工事請負費五四〇万円、一月二十日着手、竣工予定三月末日。

◇上水道配水本管才七期工事
場所 才一銀行前から駿河銀行緑町支店まで、延長二二五米。
道路中央に敷設されている内径二〇〇粍延長二二五米の配水管を撤去し内経四〇〇粍延長二二五米の配水本管を道路の東側歩道に、七五粍の配水管を西側歩道に敷設するものの。これは継続中の上水道拡張工事に伴う配水本管取替工事であって、県の道路改良計画の都合により才六期工事（竹の花）より先立って行うものです。この配水本管敷設替工事は将来才十期ぐらいまでを要して地方事務所際まで延長する予定となっています。
着工は一月二十日、竣工予定は二月末日、総工事費は鉄管その他の材料及び工事請負費を含めて四百二十五万円です。



国府津小の給食始まる 酒匂小もA型給食へ

国府津小学校と酒匂小学校の給食調理場新築工事は、昨年末において相ついで完成しました。これに伴って国府津小学校は今月十六日から待望の学校給食が始まり、酒匂小学校も今月二十三日から従来の週二回の完全給食（D型給食）から週五回の完全給食（A型給食）に切り替えることとなりました。

これによって本市の学校給食実施は、十九校（うち分校二を含む）となりました

【写真は新築なった酒匂小学校の給食調理場】

任務を了えて 国体委員会解散

市国体委員会事務局では、昨年の国体終了以来、残務整理を進めておりましたが、この程これを終り、才十回国体小田原市委員会収入支出計算報告書を作成し一月十九日会計監査を経て一月二十四日、小田原市国体委員会の総会を開いて認定を求め異議なく承認せられました。

かくて才十回国体小田原市委員会は、この総会をもってその任務を完了し解散することとなりましたが、思えば、二十九年十一月の準備委員会発足以来一年五カ月国体の開催準備からその運営及び残務整理に至るまで終始円滑且つ成功裡に運ばれたことは、委員諸氏の献身的な活動と市民各位の御協力に負うところが大なるものがあります。ここに厚く感謝する次才であります。収支報告書の概要は、別項のとおりでありますが、残金二十一万七千三百十七円は備品消耗品等と共に市に移管されることになります。

国体後援会も解散

才十回国体開催にあたり物心両面の協力にあたるものとして活躍してまいりました国体後援会小田原支部は、昨年十二月十六日をもって一切の事務を了え、解散いたしました。ここに才十回国体開催について寄せられた市民各位の御理解と御協力に対し厚く御礼申し上げる次才であります。

なお、後援会収支決算の概要は別表のとおりであります。

国体小田原市委員会 収支計算報告

（概要）

	円
収入	8.389.170
◇補助金（市380万県20万）	4.000.000
◇入場料収入	1.661.409
◇寄附金（後援会及び一般寄附）	2.170.225
◇前年度繰越金	94.435
◇雑収入（広告料売店使用料等）	463.101
支出	8.171.853
◇事務局費（職員給料その他）	1.712.509
◇大会運営費	1.918.451
1.総務部費	369.966
2.施設費	567.588
3.宿舎交通広報部費	347.945
4.演技部費	591.019
5.衛生部費	41.933
◇軟式庭球費	1.258.484
◇ソフトボール費	1.049.452
◇陸上競技費	2.124.647
◇国体協賛議員野球大会費	108.310
◇予備費	0
収入支出差引残金	217.317

国体後援会収支決算（概要）

収入	2.319.480円	
◇募金収入	2.302.480	（寄附金）
◇雑収入	17.000	（バッチ売上代）
支出	2.319.480	
◇業務費	78.355	（旅費、報賞費、印刷費等）
◇諸支出金	2.241.125	
1.納付金	2.147.125	（国体小田原市委員会へ寄附）
2.需用費	17.000	（バッチ製作費）
3.負担金補助及び交付金	77.000	（県後援会負担金）

火事は一刻も早く消防署へ連絡して下さい

最近非常に空気が乾燥している為か各方面でひんぴんと火事がおきています。火事は予防する事が才一ですが若し不幸にして火事になった時は一刻も早く消防署へお知らせ下さい。消防署では一分一秒でも早く消防車を出動させ損害を最少限に止めるよう努力していますから先ず通報する事を忘れないで下さい。

火事の電話をかける時は「火事です、消防署へ」といえば火災専用電話で消防署につなぎます。署員が応答したら「場所、附近の目標」をはっきりいって下さい小田原電話局以外の電話を利用する時は市外回線で小田原局を経由して消防署に来るので署員が応答に出るまで電話を切らずに待って下さい。

なお、消防署には警察電話も入っていますから最寄りの駐在所又は派出所の警察電話を利用すると早く連絡がとれます。

十二月競輪の成績

十二月競輪は、本年度市営才七回競輪として、十二月二十四日から二十九日まで六日制をもって開催されましたが、車券総売上額は一億四百一万八千八百円で、純益見込額一千百五十万円に達し、本年度八月記念競輪に次ぐ好い成績を収めました。

市税は納期内に
十二月末徴収率は九〇％

市では市税の滞納を掃するため昨年十月十七日から十二月二十三日までの間、市税滞納整理を実施し、市民の皆様の御協力を得て極力徴収に努力いたしましたこれによって十二月末までの市税調定額二億三千八百三十二万四千九百五十二円に対し、九〇％の二億一千四百五十五万一千二百五十三円を徴収することができ未収入額は二千三百七十七万三千六百九十九円となりました。市税が納期内に納付されませんと市の事業は停滞し勝ちとなりますので市税は是非とも納期内に納入下さるようお願いいたします。

また市税を滞納している方はすみやかにお納め下さるようお願いいたします。

新入児童は三、〇七四名

ことし四月一日に小学校一年生として入学することとなる児童は、昭和二十四年四月二日から昭和二十五年四月一日までの間に生れたお子さんです。

右に該当する新入学児童は男一五四四名、女一五三〇名計三〇七四名で、これら児童の保護者には今月末日までに就学告知書を教育委員会から発送いたします。

四月一日にはこの告知書に記載された小学校に入学なさる訳ですが告知書が届かなかったり、病気などで就学猶予をしようとする方は教育委員会総務課（電話二〇八〇）へお知らせ下さい

早川チームの七連覇成る

才七回市内一周驛伝

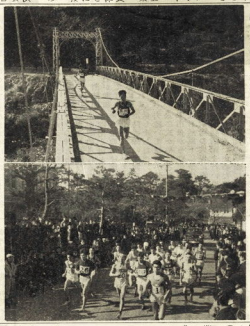
新春恒例の才七回市内一周駅伝は、快晴にめぐまれた一月八日午前十時、市内各地区青年団十六チームが参加して江之浦農協前を一齊にスタート、全コース五十余キロにわたつて青年らしい意気盛んな熱戦が展開されました。

沿道につめかけた市民の声援に応えて各チームの選手が力走を続けましたが、早川チームは全区間を終始トップで走り続け、二時間五十三分十三秒の好記録で栄ある七連覇を遂げました。優勝の早川チームには市長杯と賞状が、二位の国府津チームには県議会議長杯と賞状が、また区間記録者には賞状と賞品がそれぞれ授与されました。

順位及び区間記録者は次の通り。

◇順位
①早川②国府津③富水④酒匂⑤下曽我⑥片浦⑦久野⑧万年⑨風祭⑩桜井⑪下府中⑫上府中⑬足柄⑭豊川⑮芦子⑯二川

◇区間記録者
才一区（早川）浦井賢二郎
才二区（早川）小倉洪之
才三区（風祭）吉田　弘
才四区（早川）本田親作
才五区（早川）加藤勝美
才六区（早川）平岡　湯
才七区（早川）磯部達雄
才八区（早川）真田　久



【写真【上】市内一周駅伝（根府川、白糸橋）【下】十マイルロードレースのスタート】

元旦の初泳ぎ

一月元旦の御幸の浜で小田原市水泳協会会員約四十名が初日の出の昇ると同時に寒さももの かわ才一隊、才二隊、才三隊とつぎつぎに海中に飛び込み、恒例の初泳ぎを行いました。

この「元旦の初泳ぎ」は、全国的にも珍しい行事とあつてNHKにより、初日の出の多元実況放送の一こまとして全国に放送されました。

書道展開かる

本市を中心とする書道文化の向上と発展を図る趣旨のもとに一月二十日から二十二日まで中央公民館において才六回小田原市書道展覧会が開催されました。

小田原市書道連盟　小田原市及び教育委員会の共催によるもので本年は特に中学生、高校生から書初めを募り、これを展覧いたしました。出品点数は一般三十点高校生十七点、中学生三十六点で、中学生及び高校生の優秀作品に対し次のように賞状が授与されました。

市長賞　樋口仁男（小田高）
教育長賞　奥津慶子（白山中）
書道連盟賞　深沢敦子（白山中）
椎野多美子（〃）
金賞　市川美津子（城東高）山上美奈子（白山中）西海星潮（城山中）宮坂博子（城内高）早瀬トミ子（千代中）井上五十鈴（城山中）井上美江（白山中）金子俶子（城内高）須田敦子（白鷗中）竹田許枝（白鷗中）
銀賞　杉山和子（鴨宮中）加藤薫（千代中）神場曉美（白山中）北川律子（城内高）武井昭子（白鷗中）久保寺弘美（鴨宮中）酒井恵子（鴨宮中）芹沢孝子（城内高）加藤揚子（千代中）加藤恰子（旭ヶ丘高）

有益な古式鉄砲展

郷土文化館開館一周年を記念して一月二十日から二十四日まで古式鉄砲展覧会が開催されました。これは藤沢市鵠沼に住む鉄砲鬼集家として有名な安齊定氏の好意により同氏所蔵の古式鉄砲、参考図書約百点が出品され、ほかに井上孝之助氏所蔵の小田原城で使つた十匁砲一門、東海俊美氏所蔵品三点及び市市収入役葛屋三喜雄氏所蔵の鉄砲一点も出品されました。

徳川中期の火繩銃から幕末の雷粉銃に至るまでの各種各様の銃砲類が一目瞭然、鉄砲の製法書、鉄砲隊による合戦図及び各流砲術伝書なども展示されて近世における砲術戦や鉄砲発達の歴史が具体的、立体的に把握できる有益なもの。連日八百人から千人程度の入場者で賑いました。

2月の納税
固定資産税才4期分

納期限は2月29日
本年も市税（市民税、固定資産税）を
各納期内に完納された方々に報奨物品を贈呈します。

才九回日本十マイルロードレースの結果

日本陸上競技連盟、毎日新聞社共催による恒例の才九回日本十マイルロード・レース名誉賞大会は、新春初の陸上競技全国大会として一月十五日午前十時、全国四十三地区で一齊にスタートし、各地区で熱戦が展開されました。

小田原でも神奈川大会が行われ、市役所前―下郡橋町前川間折返し十マイル公認コースで、県下の中、長距離のランナー二十六名が、沿道市民の声援を受けつつ健脚を競つた結果、専修大学の三上君が五十二分十秒で一位（全国四十位）になり堂々二年連続優勝を遂げました。

順位は次の通り。（五位まで）
①三上年春（専大）②武井孝雄（中井中教員）③横満三郎（横浜高校）④飯村正吉（国鉄大船）⑤小宮　浩（東電）

警察広報板

交通事故をなくしましょう

交通事故は警察や交通安全協会の努力のみでは防止することが困難であります。

交通事故の原因を調べてみますと、歩行者の不注意から起つたものであると認められるものがかなりあります。ちょつとした不注意が一生のわざわいとなりますので交通に深い関心を持たれることが大切です。

もしみなさまが交通について深い関心を持たれるならば対面交通の確立も容易でありましようし、商店街の通りも交通しよくなりましよう。そして自動車等を操縦するにあたつても無謀な運転を避け、法規を守つて運転するようになると信じます。従つて悲惨な交通事故も少くなると思います。昨年の小田原警察署管内に発生した交通事故件数、死者、負傷者、物件損害を調べてみますと次のとおりとなつております。

一、発生件数　三八〇件
二、死者　九名
三、負傷者　二二八名
四、物的損害　一一、一四三、〇〇〇円

これを昭和二十九年度と比較しますと発生件数は一三四件減、死者六名減、負傷者六七名減、物的損害八、四九一、〇〇〇円減の好成績を示しております。これは一般に交通についての関心が深まつてきた証左であると確信いたし、市民のみなさまの交通道徳水準の高くなつたことを喜ばしく存じます。今年はさらに拍車をかけ、事故防止のため次の諸点について御協力願います。

一、右側通行を守ること
二、法規を守つて自動車等を運転すること。
三、道路を歩きよくきれいにすること。
四、道路上でローラースケートやキヤツチボールをしないこと。
五、道路に物を置かぬこと。
六、結氷期に水を道路に捨てないこと。

城南中学校の本田選手が新記録

才二回県下中学校チームレース

小田原陸上競技協会主催、小田原市、小田原市教育委員会、毎日新聞社後援による恒例の才二回県下中学校チーム・レースは、一月十五日十マイルロード・レースに引続き県下の精鋭二十二校四十チームが参加してはなばなしく展開されました。

午前十時五分、二四〇名の少年選手が、市役所前を一齊にスタート、酒匂橋往復五千米のコースで刺を競つた結果、初出場の横浜市立六浦中学校B組が優勝を遂げ毎日新聞寄贈の優勝楯を獲得しました。

このレースは、六人を一チームとし、五人までの着順位について一位を一点、二位を二点とそのまま集計し最少得点チームからチーム順位を決める特異な団体競技であります。

なお、このレースに出場した市立城山中学校A組は六位に、また市立城南中学校の本田親作君は、十六分五十秒の大会新記録で一位（個人）になり、地元小田原のために万丈の気を吐きました。順位は次の通りであります。

（十位まで）
①横浜六浦中B②横浜金沢中③横須賀不入斗中④愛川町愛川中⑤上郡湘光中⑥城山中A組⑦横浜末吉中⑧湯本中B⑨国府中A⑩吉浜中

賑つた新春の城址公園

好天に恵まれた新春の城址公園は、連日市内や近郊からくり出した家族連れで大いに賑い、昨年十一月から新設された観覧車や旋回車をはじめ遊器具の利用者は新春十日間で延三万人の多きに達し、その売上は昨年同期より一〇八、一六〇円の増加を示し、三一一、二五〇円にのぼり近年にない売上でありました。

なお市では、元日から三日までに遊器具を利用したよい子達にお年玉として動物のお面を贈呈いたしました。

成人の日に篤行青年表彰さる

一月十五日の成人の日を記念して、全国の市町村ではこの日までに満二十歳に達した青年の前途を祝福していろいろの行事が行われました。

小田原市でも青少年福祉協議会の主催により当日午前十時から市議会議場で関係者多数が列席して才六回篤行青年の表彰式が挙行されました。

式は、市青少年福祉協議会会長の鈴木市長の挨拶について市内の篤行青年二十四名（男二十一名、女三名）に対し、鈴木会長から表彰状と記念品がそれぞれ授与された後来賓からお祝の言葉があり盛会裡に式を閉じました。今回表彰された篤行青年は次の通りです。

（緑）木多信夫、日比野正巳（新玉）佃悦夫（万年）小林幸雄（幸）杉木禎子（十字）湯山二男（足柄）日比野芳太郎（芦子）高橋雪子（二川）藤沢亀二郎（富水）中島利三男（久野）星野馨（大窪）秋山守（早川）山口辰章（山王鍋一色）高橋元治（下府中）鈴木茂（桜井）岡部利喜三（豊川）栢沼博（上府中）杉山茂（下曽我）穂坂正義（国府津）川口浩大川清（酒匂）張替勇、芦浦保之（片浦）高島フミ子

【写真は成人の日の篤行青年表彰式】

小田原の歴史（5）

小田原市教育研究所

3 師長国と相武国

この時代、神奈川県の西方には、相武の国と師長の国の二つの国がありました。相武の国は相模川流域を中心とする地域で、師長の国は酒匂川の流域を中心とする地域であつたといわれています。小田原や、足柄平野一帯は師長の国の一部でありました。

しかし、この二つの国も西の方からのびてきた大和朝廷によつて、統一されました。むかしの書物には、日本武尊の東国征伐の時に相武の国造をほろぼし（古事記）、成務天皇の時、大和朝廷から新たに両国の国造を任命された（旧事記）と書かれています。その後この二つの国は、大化の改新の時に併合されて、相模の国となり、足柄上下、大住、余綾（中野、平塚）愛甲、高座、鎌倉、御浦の八郡ができました。

王朝時代

王朝時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代を含めた時代で、貴族が力を振つた世の中でした。

一　千代観音（奈良時代）

奈良、平安の頃になると酒匂の沖積平野はいよいよ開け、千代の台地はその中心でした。奈良時代は仏教が盛んになりましたが、千代には大寺院が建てられました。この台地から発見された、いろいろなかわらや大きな土台石などから、余程大きな建物であつたことがわかります。現在も観音屋敷、堂の脇、堂の後などの地名が残つています。その後、観音堂の方は平安時代のはじめの頃、飯泉に移されたと寺の記録に書かれています。

上古の頃、駿河（静岡県）から相模にはいる道は、足柄峠を越えて丹沢山のふもとのところを通つていたのですが、奈良時代になると酒匂平野が発達したので、足柄峠を越えて、坂本駅（今の岡本）に出て、千代の観音のところを通つて、小総駅（今の国府津と思われる）に出ました。そこでこの平野の中心にあたる千代が、奈良時代におけるこの地方の文化の中心になつたものと思われます。もとの小田原地方は、この道路よりはずれていたので、まだ特別な発達はみられませんでした。

【写真は現在の千代台地】